

令和4年度「自己点検評価」の改善を要する事項の進捗状況について(令和5年12月時点)

【令和3年度実施分】

令和3年度の点検・評価において改善が必要とされた事項のうち、令和4年度の点検において改善が完了しなかった5項目について、令和5年度に進捗状況を確認し、2項目が改善完了、3項目が対応中であると判断した。対応中の項目については令和6年度に再点検を行う。

◎令和3年度に改善とされた事項の進捗状況

点検事項	改善が「対応中」の項目数	改善事項の進捗状況
教育課程	1	対応中1
キャリア支援	3	対応済1, 対応中2
附属図書館	1	対応済1

各改善事項の対応状況は以下のとおりである。

教育課程

【改善事項】シラバスについて項目の空欄や内容の不備が散見される
【対応状況】

令和4年度に「シラバスチェックリスト」を改訂し、令和5年度の点検を行ったところ、一部シラバスに不備を確認したため、引続き改善が必要であると判断した。今後はシラバスの修正を行うとともに、各キャンパスにおいてシラバス点検を徹底する。

キャリア支援

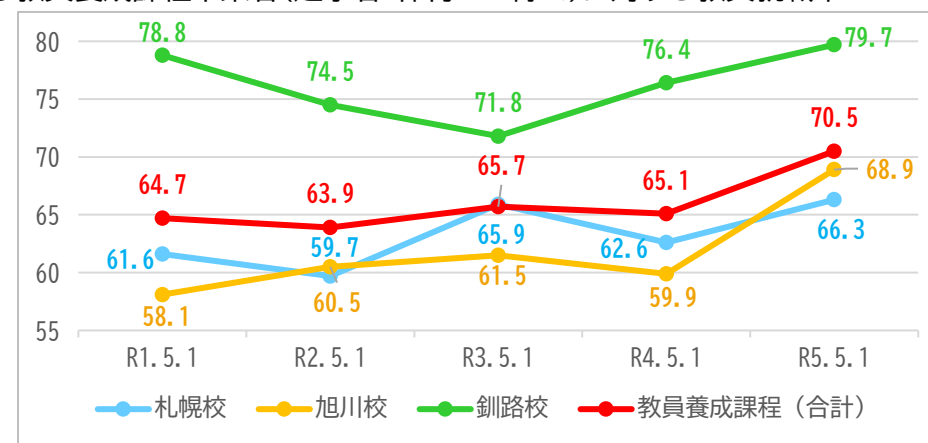
【改善事項】・キャリアセンターの利用促進及び環境整備
・教員採用2次試験に向けた支援体制強化
・民間企業志望者等に対する支援体制強化

【対応状況】

キャリアセンターの利用を促進するため、個室ブース設置等の環境整備を行うとともに、ニュースレター等の広報を続けたことにより、相談件数が昨年度より約100件増加した(令和5年11月時点)。また、卒業・修了者への動向

調査において、「教員の面談・指導」「キャリア相談員の面談・指導」「就職支援講座」が就職に役立ったとの回答が約5割を占めることを確認した。学部の就職希望者に対する就職率は令和3年度卒業生95.9%から令和4年度卒業生97.4%に、教員養成課程の卒業生(進学者・保育士を除く)に対する教員就職率は令和3年度65.1%から令和4年度70.5%に増加した。これらの状況から、相談体制や環境整備が改善されたと判断したものの、引続き教員採用の登録率や就職状況の経過を確認し、最終的な判断を行う。

◎教員養成課程卒業生(進学者・保育士を除く)に対する教員就職率



附属図書館

【改善事項】ラーニングコモンズの認知度が低い
【対応状況】

令和5年5月に新型コロナウイルス感染症が5類感染症へ移行したことに伴い、図書館の利用制限を解除し、ラーニングコモンズ等の利用促進を図るためのイベントを実施した。学生に対しアンケートを実施したところ、ラーニングコモンズの認知度が令和3年度50.7%から令和5年度82.7%に上昇したことから、改善されたと判断した。

【令和4年度実施分】

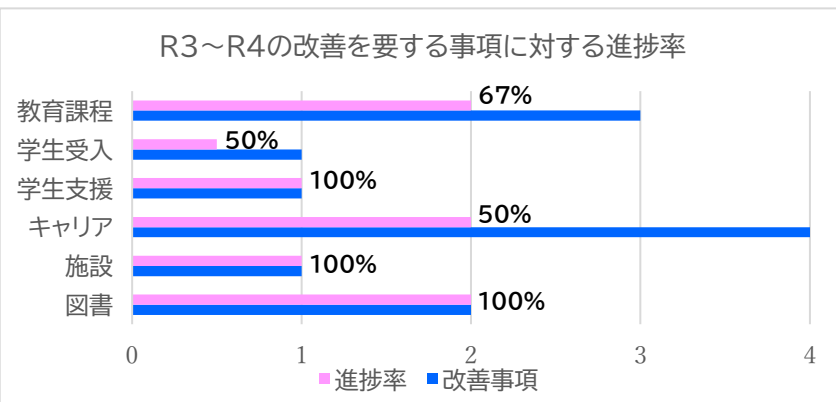
令和4年度の点検・評価において、点検した31項目のうち、改善を要する事項としたものが7項目あった。そのうち附属図書館の評価基準「自主的学習環境が十分に整備され、効果的に利用されていること」について、コロナ禍の利用制限も影響して、座席占有率が5%を切る構成館(5館中2館)があったことから、附属図書館全体として「基準を満たさない」と判断した。

なお、満たしていないと判断した基準については、その他の基準を含めて総合的に勘案した結果、本学が教育研究活動を行う上での質は確保していると判断している。

附属図書館を含め、改善が必要とされた7項目は、改善措置を実施しており、令和5年度に進捗状況を確認したところ、4項目が改善完了、3項目が対応中であると判断した。対応中の項目については令和6年度に再点検を行う。

◎令和4年度に改善とされた事項の進捗状況

点検事項	令和4年度点検数	改善を要する事項	改善の進捗状況
教育課程	12	2	対応済1,対応中1
学生受入	4	1	対応中1
学生支援	5	1	対応済1
キャリア支援	4	1	対応中1
交換留学生等支援	2	0	
施設設備	1	1	対応済1
情報セキュリティ	1	0	
附属図書館	2	1	対応済1
合計	31	7	対応済4,対応中3



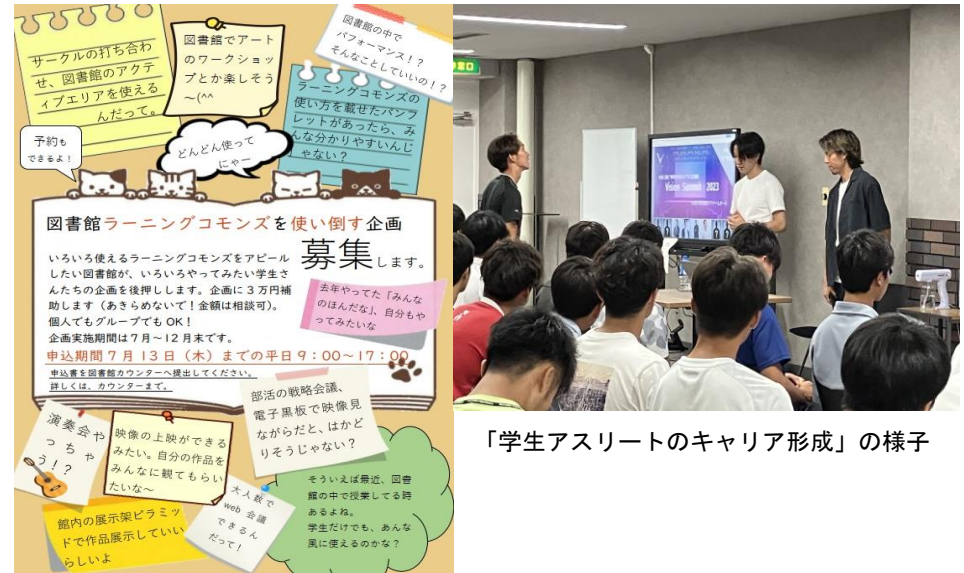
※進捗率は「対応済=1」「対応中=0.5」「未対応=0」で換算

満たさないと判断した附属図書館の改善状況及び次年度に再点検が必要な3項目の対応状況は、以下のとおりである。

附属図書館

【改善事項】閲覧席の利用率が低く、効果的に利用されているとは言い難い
【対応状況】

利用率向上のための取組として、各構成館でイベントを実施した。岩見沢館ではラーニング commons の活用を促すため、作品展示やイベント等の募集を行った。学生から12件の応募があり、各企画を実施した。学外講師を招いた講演会「学生アスリートのキャリア形成」では、グループワーク等が実施され、50人の学生・教職員が参加している。

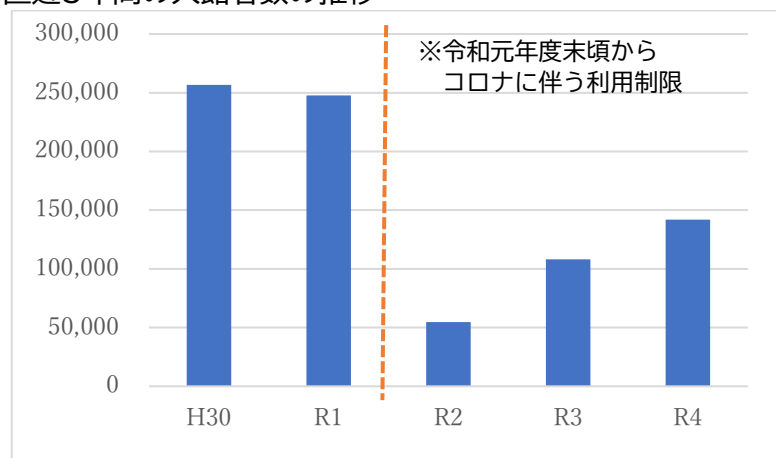


「学生アスリートのキャリア形成」の様子

札幌館では、ラーニング commons を活用したセミナー「レポートの書き方」を全館へオンライン配信した。セミナーは電子黒板を活用して、ラーニング commons の活用を周知する機会として実施し、全館合わせて55人の学生・教職員が参加している。

これらの取組の結果、全館の入館者数が102,082人(令和4年11月時点)から121,087人(令和5年11月時点)と約1万9千人の増加となり、コロナ禍で利用者数が低下していた状況から改善されたことを確認した。

◎直近5年間の入館者数の推移



教育課程

【改善事項】新たな履修カルテを整備する

【対応状況】

令和4年度に「教育支援総合システム」を導入したことに伴い、履修カルテの見直しが必要となったことについて、令和4年12月に新たな履修カルテを整備して改善を行ったが、活用状況に課題があることが確認されたため、引き続き検討することとなった。

学生受入

【改善事項】Jアラートの対応マニュアルを整備する

【対応状況】

事後処理要領にJアラートが鳴った際の対応をマニュアルが整備されていなかったことについて、マニュアルの整備を行ったものの、一部の選抜区分の事故処理要領に未掲載であることが確認された。入学試験委員会において対応指示を行っており、次年度に改めて確認することとした。

キャリア支援

【改善事項】進路状況調査の進路不明者を減らす

【対応状況】

各キャンパスに進路の把握を徹底するよう通知し、収集に取り組んだ結果、就職状況調査において、進路不明者数が前年度と比較して、教員養成課程(札幌、旭川、釧路)は3.6%から1.2%、学科(函館、岩見沢)8.1%から6.1%、修士課程10.8%から7.7%と減少する結果となったが、令和5年度の就職状況を確認してから改めて判断することとした。